

知恵袋（その 14）

真に必要とする市民主導のバス運行について、行政が財政補助（千葉県市原市）
 ・「あれば便利」という意識から、「地域住民が当事者意識（マイバス精神）を持ち、乗ること
 とで意地が図られるといった考え方を地域住民に持ってもらうことで、運行を持続させる
 取組みを実施。

住民の動きに合わせて市が補助制度で支援

- ・ 市原市では、市民が主体となって運行するコミュニティバスなどの支援を行うため「市原市コミュニティバス等導入調査研究事業補助金」、「市原市コミュニティバス等運行支援事業補助金」の要綱を制定。
- ・ 地域住民による運営協議会が運行するコミュニティバス等について、市が運行経費の 1 / 2 を上限として補助する制度で支援。
- ・ 計画立案から、運行業者との各種協議調整、資金管理までの一連の取組みを、住民による運営協議会が実施。



写真 3-13 あおばすの車両

- ・ 赤字が発生した場合に備え、運営協議会が主体となり基金を創設。あおばすでは、3 町会が負担する基金制度を導入しているが、これまでは利用されていない。

「住民が公共交通を本当に必要とする」ことが大事

- ・ 当初、市民は行政運営によるバス運行の要望にとどまっており、自らの熱意で運行を実現させようという意識は少なかった。
- ・ しかし、行政担当者の市民への働きかけもあり、住民主体の研究会が発足。市民自らが主体となって「バスが必要」「バスを走らせたい」という強い思いから、あおばすの運行が実現した。このなかでは、市原市の補助制度も有効に機能した。
- ・ 「あおばす」の利用者数は増加傾向にあり、平成 18 年から 20 年で約 1.17 倍の増加率となっている。
- ・ 平成 20 年 1 月には、南総西地区において、あおばすと同様の運営・運行形態である市内 2 路線目のコミュニティバス「コスモス南総」の運行が開始された。運営主体は「南総西コミュニティバス運営委員会」であり、運行を小湊鉄道（株）に委託している。平日に、上り 8 便、下り 7 便が運行されている。

表 3-3 あおばす乗車人員の推移

年度	乗車人員（人）
17	29,092
18	83,862
19	91,468
20	97,761

平成 17 年 11 月運行開始

（出典）市原市提供資料